

千八百七十八年八月三十日倫敦マダムス新聞抄譯

廿九日并

大藏省  
翻譯課

佛國巴理府に於て催せたる各國貨幣委員會議事

五ノ一



414  
A3476



千八百七十三年八月廿九日倫敦新聞抄譯

大正十一年四月  
報侯爵郵寄禮

預想マシキニ出テタリキ然リ而シテ我ガ英國政府ハ殆ンド我輩ノ  
 委員ヲ派遣スルニ際シ之レヲ派遣スルモ決シテ害アル可カラ  
 スト議定セシハ實ニ其識見ヲ誤マラサリト云ハサルヲ得ス  
 何トナレバ合衆國政府ガ我ガ英國ヲ自他歐洲諸國ト共ニ該万  
 國會議ニ招待セシキ友誼ヲ全フシ且ハ復令ヒ此ノ會議ノ席  
 ニ列ナルモ我ガ英國ノ委員ハ該事件ニ付テ我ガ英國ノ見込ヲ  
 十分ニ辨明シ強クニ該會議ノ議定ニ後フヲ要セサルニ由リテ  
 我ガ英ハ當百ノ初メニ於テ正金拂ニ復スルノハ是ニ當リ斷  
 然單一ニ採リシ價格ノ本位ト定メタリ蓋シ正金拂停止以  
 前ニ在リテモ我ガ英國ニ於テハ慣行上ヨリ金貨價格ノ大

ナリ来リ而シテ一千八百十六年、  
法律ニテ定メシキハ、  
一千八百十六年、  
國ノ約束ハ金ヲ以テシタレバ我輩ハ固ヨリ之レニ執着セサル  
可カラス現今将来ヲ問ハス我ガ英國ノ貨幣ハ金即チ獨リ金ノ  
ミヲ以テ單本位トシ銀ノ如キハ唯々補助ノ為メニシテ之レニ  
与フルニ實價以上ノ價ヲ以テシ四拾「シルリンク」以上ハ負債仕  
拂ノ為メニ法債タルヲ許ヤ、ル可シ右ハ則チ我輩ガ我ガ英  
國通貨ノ制ヲ改ムベカラサルノ趣意ニシテ銀債本位ノ説ヲ採  
ラサル以テナリ尤モ之レト時ヲ同フシテ我輩ハ又他ノ國々ガ  
銀ヲ以テ價格ノ本位トナスモ或ハ價格本位ノ為メニ金貨ノ使  
用スルトモ更ラニ之レヲ妨碍スルヲ好マス見スヤ我輩ハ自カ  
ラ印度ニ於テハ銀ヲ以テ本位トナスヲ若シ萬國悉ク銀ヲ廢シ

獨リ印度ノ銀本位ノ慣習ニ由リテ存スルヲラシメバ我ガ  
英國ノ為メニ何ゾ不都合ナラザラン是レニ因テ我輩ハ他ノ國  
々ガ銀ヲ使用セザランヲ德憑スルハサテ置キ寧ロ之レニ又用  
ニ歸セントテ獎勵スルコソ本意トスルナリ斯ル種々ノ理由  
アレバ我ガ英國政府ガ或ハ英國ノ意見ヲ陳ヘ或ハ他國ノ意見  
ヲ聽カシメンガ為メニ具ノ委員ヲ萬國貨幣事件ノ會議ニ派遣  
セシハ寔ニ妥當便宜ノ所置ナリキ然リ而シテ「ゴスチエ」氏  
「サート」氏「マスマ」氏「セツコム」氏ハ審判ニ此ノ意ヲ体レ能ク機ニ臨  
シテ其論スル所ノ旨意ヲ誤マタサリキ因リテ該會ニ列スル各  
國ノ委員ノ中一人ノ我ガ合衆王國ガ竟ニ方向ヲ改シ銀ヲ以  
テ價格本位トシ「ゴスチエ」氏「サート」氏「マスマ」氏ハ勿論  
又其ノ委員ニ我ガ委員ノ論議ノ為メニ激勵スルガ如キ  
ヲアラガラシメタリ而シテ歐洲諸國ノ委員ノ意モ亦我ガ如キ

委員ガ發言セシ所ト時 相符合シレバ該會ノ議ハ竟  
負ク  
且  
各國ノ自由ニ任セザルベカラストハ該會ノ決議ニシテ又タ我  
輩ノ希望スル所ナリキ

金銀兩本位ノ利害如何ハ己ニ一般世人ノ熟知スル所ナレバ我  
輩ハ故ラニ之レヲ爰ニ贅セス我ガ英國ニ在リテハ曾テ千載万  
論ヲ尽シ然ル上一千八百十六年ニ於テ金ヲ以テ償債ノ法債ト  
定メシ以來既ニ千茲六十年ノ久シキヲ經ルト雖モ未タ曾テ我  
ガ英國經濟家ノ之レヲ非トシ論スルモノアルヲ知ラス且又此  
ノ金債本位制度ノ宜キヲ得タルヤ總テ内外國ノ是認  
ナリ竟ニ我ガ英國ノ例引テ他ノ國々ニマデモ及フノ勢アルガ  
如シ觀ル可シ日耳曼國ハ國代ノ改革ニ當リ銀本位ヲ廢シテ金

本位ヲ採用シ而シテ一千八百六十三年ニ於テ合衆國ニ亦銀本位  
ヲ廢セリ凡モ當時ニ在リテ合衆國內ニ流通ノ貨幣ハ專ラ下落  
セル紙幣ナリシガ故ニ本位ノ改革ハ有名無実ノ外ニ  
キ然リト雖モ此後幾モナラスシテ「セル」氏ニユス「氏」ナル者巴理  
ニ於テ金銀兩本位論ヲ講出シ頗ル勢ヲ振ヘリ氏又倫敦ニ來遊  
シテ頻リニ其ノ持論ヲ講シ我ガ本位ノ制度ヲ更改セシメント  
試ミタレ氏志ヲ遂ケ得ス白耳義人「テ」ラウ「エ」氏亦其意見ヲ  
吐キ金銀兩本位ヲ保護センガ為メ一小冊子ヲ著述シタレ其  
ノ議論ハ以テ英國ノ輿論ヲ動カスニ足ラザリキ是ニ於テ「セル」  
ニユス「氏」ハ合衆國ニ轉セリ然ルニ合衆國ニ於テハ「大」氏ノ  
説ヲ喜  
産出  
レヲ貨幣ニ製造ノ上ニ場ニ投  
熱心渴望スルニ由

ニ若レ銀ヲ以テ再ヒ金貨タラシムルノ制度ニ復スル  
當ラハ、<sup>ノ</sup>時ニ開鑿ニ著手スルニハ疑ヲ容ル可  
クラス、<sup>ノ</sup>海地方ニ於ケル貿易及ヒ銀行社會  
ノ大ニ之レヲ憂ヘカテ尽シテ本位制度ノ改正ヲ駁論セリ此輩  
論シテ曰ク銀本位ノ再用ハ現約ニ違背スルノミナラス焉メニ  
各債主ニ不測ノ損害ヲ被ハラシム可シトハエス氏及ヒ内閣ノ  
意モ亦此ニ出テセルニエスナ<sup>レ</sup>氏ノ意見ヲ是認セザリキ然リト  
虫氏我輩ハセルニユスナ<sup>レ</sup>氏ノ意見ノ竟ニ衆望ヲ得タルヲ知ル  
何トナレバ、<sup>ノ</sup>氏ノ銀本位議案ハ議院ニ於テ翼賛ノ多數  
ヲ得大統領ノ権モ之レヲ拒ム<sup>ノ</sup>得ザリシニ由レバナリ但シ  
政府ハ談議案ニ銀貨鑄造ノ制限ヲ立ツルノ一箇条ヲ置スル<sup>ノ</sup>  
ヲ得タリシトハ虫氏必竟ハ断然銀貨ヲ以テ再ヒ價格ノ本位ト  
定メレナリ此ノ議論ノ結テモ夕解ケザルニ當リテヤ或ハ論レ

或ハ駁ニ大小著述刊行ノ夥タル挙テ数フルニ違マアラザリ  
キ<sup>ノ</sup>ホ<sup>ノ</sup>氏ノ大<sup>ノ</sup>在<sup>ル</sup>カ<sup>ノ</sup>氏<sup>ノ</sup>決<sup>シ</sup>事<sup>件</sup>ニ  
関スル所ノ諸論ヲ集メ編シテ頃口之レヲ出版セリ諸君請<sup>フ</sup>此  
ノ昏ニ就テ詳細ヲ知レ  
佛、瑞、澳、白<sup>耳</sup>義<sup>耳</sup>ホノ諸國ニ於テモ談事件ニ就テ利害ヲ論争スルノ  
景狀ハ恰モ合衆國ニ於ケルト一般ナリモ我輩ハ前ニ「セルニコ  
ス<sup>ノ</sup>氏及ヒ「テ、ラウエルエ」氏ノミヲ挙げタレ<sup>レ</sup>前ノ「ウカロラス  
キ<sup>ノ</sup>氏及ヒ「ミテエルマワリール」氏「ウカクトルボンチツト」氏「ヘ  
ル、ヘルツカ」氏及ヒ其他ノ諸士<sup>モ</sup>皆ナ同説ヲ主張シテ前述ノ二氏  
一歩ヲ譲ラザリテリ諸外國ニ在リテハ論者互ニ半ハシテ  
優ラス、<sup>ノ</sup>唐<sup>ノ</sup>直<sup>レ</sup>ト虫氏我輩ハ本々曾テ一英人ノ  
談事件ニ<sup>ノ</sup>シテ聞カザルナリ然ルニ固談事件ノ是非ヲ  
判定セン<sup>ノ</sup>ハ斯ノ如クニ夫レ困難ナラザルヲ得サル<sup>ノ</sup>

此編  
取ル  
取ル

便タラシムルノ制度ニ復スル  
ニ開鑿ニ著手スルニハ疑ヲ容ル可  
クシ海地方ニ於ケル貿易及ヒ銀行社會  
尽シテ本位制度ノ改正ヲ駁論セリ此輩  
用ハ現約ニ違背スルノニナラス焉メニ  
被ムラシム可シトハエス氏及ヒ内閣ノ  
エスチ氏ノ意見ヲ是認セザリキ然リト  
シ氏ノ意見ノ竟ニ衆望ヲ得タルヲ知ル  
氏ノ銀本位議案ハ議院ニ於テ翼賛ノ多數  
ヲ拒ムト得ザリシニ由レバナリ但シ  
製造ノ制限ヲ立ツルノ一箇条ヲ付スル  
必竟ハ断然銀價ヲ以テ再ヒ價格ノ本位ト  
結デモク解ケサルニ當リテヤ或ハ論レ

行ノ夥タルヲ挙テ数フルニ違マアラザリ  
氏ノ大学校ニ在ル「ウォーカー」氏事件ニ  
編シテ頃口之レヲ出版セリ此請フ此  
於テモ諛事件ニ就テ利害ヲ論争スルノ  
於ケルト一般ナリキ我輩ハ前ニ「セルニコ  
ル」氏ノミヲ挙げタレハ前ノ「ウオロウ  
ワッソール」氏「ウヲクトルボン」子ツト「氏」  
ノ諸士皆ナ同説ヲ主張シテ前述ノ二氏  
リ諸外國ニ在リテハ論者互ニ半ハシテ  
「セルニコル」氏「ウヲクトルボン」子ツト「氏」  
間カガルナリ然ルニ固諛事件ノ是非ヲ  
ニ天レ困難ナラザルヲ得サル

此編集物ハ頗ル緊要ニシテ御参考ニ欠クベカラ  
ザルモノト相考スル所ニ追テ捜求ノ上翻譯ニ付  
取計り心付

見ル所ハ決シテ然ラズルナリ彼ノ得識ニシテ偏私ナキ  
加レテ 誠ニ曰ク大事件ノ如キハ単ナル經濟上ノ一問題ナリ  
ト云フ 然レモ 思慮ノ為メニ蔽ハレタリト云フ 氏ハ此ノ  
英藤ノ容易ニ解クルノ日アルベシトハ想像セザルガ如シ是レ  
蓋シ氏ハ此ノ紛紜ノ因テ起ル所ノカヲ過慮セルニ由レリ觀レ  
可レ佛國ノ人民ハ總テ金銀兩本位ヲ渴望スルトハ云々難シ何  
トナレバ一方ニハ「セウリール」氏及「ボン」子ツト「氏」ナル板群ノ  
強敵アリテ對当ノ地位ヲ占メタレバナリ因テ我輩ハ日耳曼ノ  
政事家ガ單本位ニ執着シテ兩本位ノ説ヲ容レザルハ獨リ仙國  
經濟家ノ下風ニ立ツヲ愧ツルニシテ出ツルトハ信シ難シ「チ  
エートン」種派ノ國々ト「ラチン」種派ノ國々ト互ニ其意見ヲ異ニ  
スルノ非ナルハ万國貨幣事件會議ノ議論ニ於テモ既ニ十分証  
明スル所ナレバ若シ我輩ニシテ平心靜思以テ事理ヲ明カニス

ルハ我輩ハ共ニ此ノ偏見固執ノ非ナルヲ曉ルニ至ル可シ固  
ト單本位ニセヨ兩本位ニセヨ之レガ改革ヲ行フノ際ニ當リテ  
ハ何レノ國タルヲ問ハス旧法ニ大影響ヲ及ボスベク「バ」之レ  
ガ利害ヲ考ヘザルヲ得サルハ理ノ当然ナリ尤モ若シ單本位ト  
兩本位トハ何レカ是ナルト我輩ニ問ハバ我輩ハ寧ロ單本位ヲ  
採ラントス然リト云フ 我ガ英國ノ貨幣制度ハ一千八百十六年  
ノ議定ト此ノ議定ヲ以テ造成セシ約束トニ由リテ確定セラレ  
タリ因テ今更銀ヲ以テ金同様ニ償債ノ法債トナスヲアラハス  
ル制度ナキノ日ニ於テ約束セシ債主負債者ノ間ニ關係ヲ及ボ  
ス所ハナカラザル可ケレバ斯ル制度ノ改革ハ事實已ムヲ得ザ  
ルノ場合ノ外ハモテテ之レヲ行フヲ遠正トモス況ンヤ後令ニ  
事實已ムヲ得スレテ之レヲ行ナフノハニ際スルモ尚ホ嚴重ナル  
箇条ヲ設ケテ之レヲ保護セザルヲ得ザル可キオヤ且ツ我輩ガ

印度ニ在ケル價格ノ本位ヲ金ニ改ムルガ如キモ亦恰モ之ト  
同一理ナルハ一朝倉卒ニ手ヲ下スベキ事ニハアラザルナリ  
我輩ハ本銀ノ餘白限リ以テ金銀兩本位論ノ探討吟味ノ  
如キハ之レヲ他日ニ譲ラザルヲ得ス然レモ其ノ大意ヲ撮ミ此  
ニ述ブルモ亦敢テ不可ナルヲ無カル可シ若レ夫レ兩本位論者  
ガ主張スル所ノ説ヲ以テ果シテ信ナリトセバ實際事情ノ如何  
ヲ問ハス決シテ行ナハレザルヲアルノ理ナキハ勿論ナリ然ル  
ニ我輩ハ今一例ヲ挙テ之レガ攻撃ヲ試ミン此ニ四圍海水ニ包  
マレタル獨立ノ一大島アリ衣食諸般ノ物品ニ富ミ一モ他ノ供  
給ヲ仰クヲ用ヒス又金銀礦ニヤハモ之シクラス諸テ談島ノ改  
府ハ金一銀十五ノ割合ヲ以テ貨幣ヲ鑄造シ兵ニ償價ノ法債ヲ  
ルノ法律ヲ制定セリ然ルニ人アリ此ノ金一銀十五ノ割合ハ本  
ト是レ何ノ比例ニ由ルヤト問フモノアラン我輩ハ仮リニ語ヲ

設ケテ之レニ答ヘントス談島ニ在テ金一オン斯拉産出セシメ  
為メニ用エル資本勞力ハ正シク銀十五オン斯拉産出セシメ  
メニ用エル資本勞力ニ同シキガ故ナリト而シテ兩金屬ノ産出高  
关ニ之レヲ造幣局ニ送り込ム迄ノ運搬費ハ前日ノ如クニレテ永  
ク保續スルヲ得バ素ヨリ害ヲカル可レト虫氏斯ノ如キハ十  
中一モ保証シ難キヲナリ何トナレバ兩金屬ノ中何レカ産出高ヲ  
増加スルヲアル可ケレバナリ我輩暫ク銀ノ産出増加シテ金ノ  
産出高ハ依然前日ノ如シト仮定シ若レ前日ニ在リテハ銀十五  
オン斯拉産出セシメ頃ニ貳拾オン斯拉産出スルニ至リクテバ  
其意況果シテ如何ゾヤ採銀ノ業ハ一層ノ利益ヲ増シ從テ造幣局  
ニ送り込ム銀ノ數量一層ニ大ナルニ至ル必然ナレバ物價為メニ  
騰貴シ而シ採銀ノ業ハ利益ヲ失ヒ竟ニ廢業スルニ至ル可シ是時  
ニ当リテヤ流通上ニ増加スルモノハ總テ銀貨ニシテ金ハ一ト



十五トノ割合ヲ以テ之レヲ産出スルコトヲ得ザルニ由リ竟ニ流  
通上ニ其跡ヲ絶テ只債物ノ形ヲニテ其ノ名称ヲ存スルニ至ラ  
シノミ而シテ諸負債ハ皆ナ相庭低廉ナル金屬ヲ以テ仕拂ハレ  
高價ノ金屬ハ悉ク流通上ニ其跡ヲ絶テ金一銀十五ト定メント  
欲セシ所ノ法律モ實ハ与有ニ歸シテ其ノ效カアラザルベキナ  
リ右ノ比喩ハ固ト我輩ガ憶測ニ出ツルト虫氏之レヲ實際ニ徴  
シテ決シテ其ノ誤謬ナラザルヲ知ル必竟兩債本位ノ制度ヲ立  
ツル國タルモ金銀ノ中何レカーノミヲ使用スルニ外ナラス而  
カモ其使用スル所ノモノハ常ニ何レカ廉價ナル金屬ヲ以テス  
看ヨ佛蘭西ハ兩本位ノ制度タリ然ルニ曾テ「オースタラリヤ」及  
ヒ「カリフォルニア」ニ於テ金礦ノ發見アリシヤ金ノ銀ニ對セル  
價格大ニ低落セリ因テ自カラ佛蘭西ニ於テハ金債價格ノ本位  
トナリ銀ハ一時其ノ職務ヲ退キタリキ今ヤ銀債復々下落セリ

因テ若シ銀債ノ鑄造ヲシテ自由ナラシメバ輒テ銀ハ佛蘭西ニ  
於テ再々價格ノ本位トナルベキナリ故ニ我輩ハ断言ス兩本位  
ノ制度アル國ニ於テハ其ノ實際ハ一金屬ヲ使用スルニ而シ  
此ノ一金屬ハ金ナリ銀ナリ當時價位ノ廉ナルモノヲ以テスト  
是レ他ナシ廉價ノ金屬ヲ以テ負債ヲ償却セント欲スレバ負債  
者ノ常情ナルニ由リテナリ兩本位制度ノ獨リ負債者ノ為メニ  
益アリテ且ツ約束ヲ確固ナラシメザルノ弊アル斯ノ如シ豈ニ我  
輩ハ法律ノ目的ノ兩ナカラ債主、負債者ニ偏マスシテ成ルベキ  
又ケ約束ノ確固ナラシムコトヲ主張シ希望セズシテ可ナランヤ

鬼頭愷二郎譯

千八百七十八年八月三十日倫敦「タイムズ」新聞抄譯

八月二十九日附在佛信者ヨリノ電報

佛京巴理ニテ催フセシ各國債幣委員ノ會議ハ昨日差出セシ  
答唇案ヲ歐洲諸國ノ委員ガ採用スル所トナリテ本日局ヲ結ヘ  
リ其案文即チ左ノ如シ

凡ソ此會議ニ預リタル歐洲諸國ノ委員ハ今度米合衆國政府  
カ至緊至要ナル貨幣ノ事件ニ関シ爰ニ會議ヲ開キ廣ク万國  
ノ委員ヲ招集シテ以テ互ヒニ其意見ヲ交換スルノ事ヲ起セ  
シ段ヲ感謝スト

此會議ニ預リタル歐洲ノ諸委員等合衆國委員ノ意見ヲ互ヒニ  
商議熟考シ然ル後此ノ條款ヲ認可セリ

第一 凡ソ万國トモ銀ノ貨幣タル立場ト金ノ貨幣タル立場トヲ

確定スルヲ以テ要用トナスト強ク金銀二者ノ内金ヲ使用スル  
トモ若クハ銀ヲ使用スルトモ或ハ又金銀ノ兩貨ヲ併用スルト  
モ之ヲ選擇スルノ権ハ各國(又ハ聯邦諸國)ニ一任シ各國其固有  
ノ狀勢ニ由テ取定ムルトナス

第二 銀貨鑄造高ノ制限モコレ亦各國(又ハ聯邦諸國)ニ一任シ  
各國其固有ノ狀勢ニ由テ自由ニ判決セシムルヲ要用トナス  
殊ニ最近銀市場ニ擾亂ヲ醸生セシヨリシテ大ニ諸國ノ債財  
上ニ變動ヲ及セレガ故ニ尚ホ以テ然リトナス

第三 各委員ノ論說一途ニ出テザルト現ニ金銀兩位ヲ併用ス  
ル諸國ニ於テスラモ銀貨ノ無限鑄造ノ事ニ関シ何等ノ約ヲモ  
締結スルニ難キトテ觀察スレバ金銀兩者ノ間ニ万国交通ノ  
價格ヲ定ムルノ如何ニ付テ討論スヘキ理由ナキ

伊太利國ノ委員「コントラス」氏ハ以上ノ決議ニ異儀ナキノ

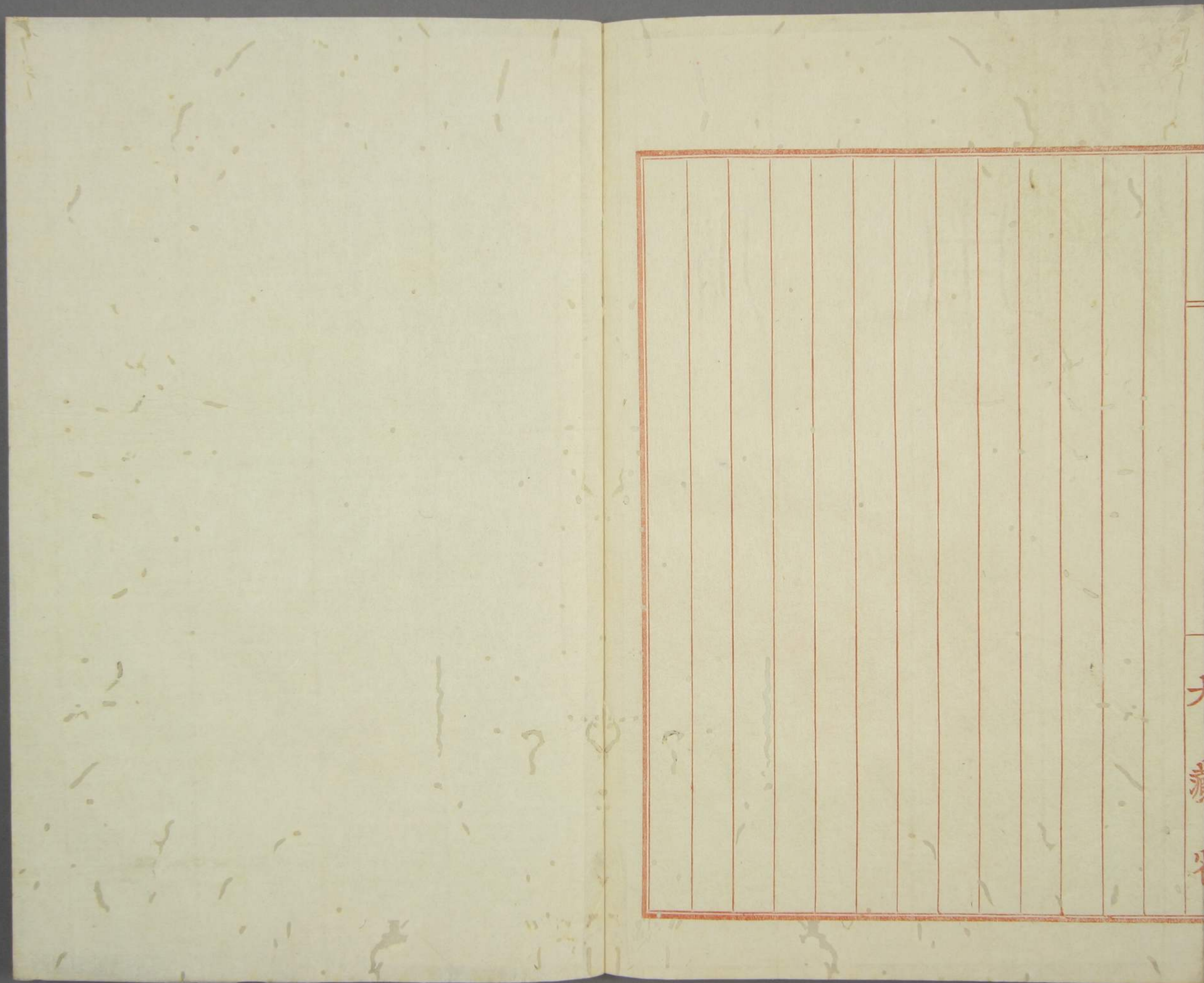
意ヲ表スルニ臨ミテ此度ノ會議ハ金銀兩者ノ間ニ價格ヲ定ム  
ルヲ以テ得難キモノト議決セザリシ旨ヲ述ヘ且ツ是迄佛國  
貨幣律ノ行ルハ日ニ當リ金銀兩者ノ割合唯僅ニ變動ヲ生ゼ  
ノミニ止マリシヲ以テ(仮令ニ金銀兩ナカラ其産出多寡アルニ  
モ拘ハラズ)今又佛、英、米ノ間ニ於テ金銀兩本位使用ノ條約ヲ締  
結スルアラバ金銀兩者ノ割合ヲ一定シテ確乎動スベカラサル  
モノトナスヲ得ヘルトマデニ論及セリ

「スウエツランド」國「フザール」ヘルゾグ氏白耳義國「カルニール」  
氏之兩委員ハ金銀兩本位ハ到底行フベカラサル旨ヲ主張セリ  
米國委員「ゴスチン」氏ハ前書ノ決議中毫モ金銀兩本位ヲ拒ムノ  
トナキモノトシテ此決議ヲ了諾セリ然ルニ依テ万国普通ノ金  
本位ヲ用ユルノ說 抗抵レ之ヲ使用スルガ如キハ實ニ莫大ノ  
不便利ナルノミナラス又危險ヲ冒スノ懼アリ加フルニ輕モス

レバ災害ヲモ来スノ憂患アルモノトセリ  
仮令ヒ「ゴステン」氏ハ銀貨ヲ以テ金貨ト陸続採用セン「ト」ヲ希望  
スルノ人ナリト雖「世」人誤テ今氏カ英國其他ノ諸國ヲモシテ  
同様兩本位ヲ使用セシメン「ト」ヲ可トスルモノト了解セサルヲ  
要ス其故何トナレバ同氏ハ既ニ金銀兩者ノ間ニ万国交通ノ價  
格ヲ定ムルハ實際上ニ於テモ理論上ニ於テモ尚ホ又學術上ニ  
於テモ到底行「ト」ヲ得サルモノト思考セシヲ以テナリ  
米國委員「セ」子ラル、ウ「カ」氏ハ今度歐洲諸國ノ委員ガ貨幣會  
議ノ席ニ列シ高議討論セシ段ヲ厚ク同委員ニ謝シ然ル後米國  
ノ委員ガ此度ノ決議ニ同意セサリシ件々ヲ説明セリ  
又同氏ハ是レ迄字内普ク銀貨自由鑄造ノ制ナカリシヲ以テ合  
衆國ニ於テモ金銀二者ノ間ニ於ケル價格ノ割合ヲ保存シ歐洲  
諸國ニ於テモ又均レク之ヲ保存セシ旨ヲ述ヘテ以テ其論ノ結

句トナセリ

然ル後米國委員「ゴ」ステン「レ」氏ニ「フ」ヤントシ「ノ」兩氏ハ今度佛國「レ」  
オン「セ」イ氏ガ能ク議長ノ任ニ堪ヘタル「ト」佛國待遇ノ厚キ「ト」  
ヲ同氏ニ謝セリ  
爰ニ於テ「カ」レオン「セ」イ氏答テ云ク佛國ニ於テハ今度米國ヨリ  
此貨幣會議ノ招キニ預リタルヲ以テ實際上結果ノ難易ハ如何  
アラシク免ニ角諸國ノ卓識博學ノ士相集合シテ各其持論ヲ陳  
述スル「ト」ヲ以テ願フヘキ「ト」ト思考セリ然リ而シテ苟モ此爭  
件ニ付関涉ヲ有スル人々ハ其陳述スル所ノ草案ニ就テ研究ス  
ルアラシ「ト」ヲ欲セリト  
米國委員「フ」ヤントシ「レ」氏「ダ」ロスベツク「レ」氏「ウ」オーク「レ」氏及ヒ「ホ」ルト  
ン「レ」氏ノ数名ハ今度ノ貨幣會議ニ付各能ク其任ヲ奉行セシニ付  
本日衆員ノ讚称スル所トナリタリ



大  
清  
平

